

講義ユニット名	呼吸器		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	はっとり のぼる 服部 登	所属	分子内科学（第二内科）呼吸器内科（内線 5196）	
		メール	nhattori@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	なかしま たく 中島 拓	所属	分子内科学（第二内科）呼吸器内科（内線 5196）	
		メール	tnaka@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	肺は個体の生命維持に必須の臓器である。救急蘇生も呼吸と循環の維持、再開にまずは全力が注がれる。本ユニットでは呼吸器（声帯よりも末梢）の解剖、生理の復習から始まってそこに起こる疾患をほぼ網羅し、それらの概念、疫学、症状、検査、診断、治療を概説する。約半数の項目は内科医のみならず臨床医として生涯にわたって利用される重要事項である。単なる知識の羅列でなく、患者に病気のおおよそを説明できる程度の理解を求める。			
講義ユニットの 到達目標	<p>気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。</p> <p>肺循環の特徴を説明できる。</p> <p>縦隔と胸膜腔の構造を説明できる。</p> <p>呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。</p> <p>肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。</p> <p>肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。</p> <p>肺の換気と血流（換気血流比）が動脈血ガスにおよぼす影響を説明できる。</p> <p>呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。</p> <p>血液による酸素&lt;O<sub>2</sub>&gt;と二酸化炭素&lt;CO<sub>2</sub>&gt;の運搬の仕組みを説明できる。</p> <p>気道と肺の防御機構（免疫学的・非免疫学的）と代謝機能を説明できる。</p> <p>経皮的酸素飽和度モニターを使用できる。</p> <p>動脈血ガス分析の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>呼吸機能検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>呼吸器系の画像検査（エックス線、CT、MRI、核医学検査）の意義を説明できる。</p> <p>気管支鏡検査の意義を説明できる。</p> <p>喀痰検査の意義を説明できる。</p> <p>咳・痰の原因と病態を説明できる。</p> <p>咳・痰を訴える患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>血痰・喀血の原因を列挙できる。</p> <p>血痰・喀血を呈する患者の診断の要点を説明できる。</p> <p>喘鳴の発生機序と原因疾患を説明できる。</p> <p>呼吸不全の定義、分類、病態生理と主な病因を説明できる。</p> <p>低酸素&lt;O<sub>2</sub>&gt;血症と高二酸化炭素&lt;CO<sub>2</sub>&gt;血症の病因、分類と診断を説明し、治療を概説できる。</p> <p>急性上気道感染症（かぜ症候群）の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>気管支炎・肺炎の主な病原体を列挙し、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺結核症の症候、診断、治療と届出手続きを説明できる。</p> <p>非結核性&lt;非定型&gt;抗酸菌症を概説できる。</p> <p>嚥下性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。</p> <p>肺化膿症と膿胸を概説できる。</p> <p>慢性閉塞性呼吸機能障害の病因を列挙できる。</p> <p>慢性気管支炎の定義、診断と治療を説明できる。</p> <p>肺気腫の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>気管支喘息の病態生理、診断と治療を説明できる。</p> <p>間質性肺炎の病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>びまん性汎細気管支炎を概説できる。</p> <p>放射線肺炎を概説できる。</p> <p>じん肺と石綿肺を概説できる。</p> <p>急性呼吸促&lt;窮&gt;迫症候群&lt;ARDS&gt;の病因、症候と治療を説明できる。</p> <p>過敏性肺（臓）炎の病因、症候と診断を説明できる。</p>			

	<p>サルコイドーシスの症候、診断と治療を説明できる。  好酸球性肺疾患を概説できる。  原発性肺癌の分類、症候、診断と治療を説明できる。  転移性肺腫瘍の診断と治療を説明できる。  過換気症候群を概説できる。  睡眠時無呼吸症候群を概説できる。  気管支拡張症の症候、診断と治療を説明できる。  無気肺の病因と診断を説明できる。  胸膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。  気胸の病因、症候、診断と治療を説明できる。  縦隔腫瘍の種類を列挙し、診断と治療を説明できる。  縦隔気腫の病因、症候と診断を説明できる。  胸膜生検の適応を説明できる。  胸膜中皮腫を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムで毎講義出席をとる。3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	